2020（R2）年　3月12日　一般質問

・歴史、文化や自然を生かした観光振興について

・公共及び民間建築物の木造、木質化の促進について

◯大原弥寿男議員　私は、自由民主党福岡市議団、冨永計久会長の代表質問を補足して、歴史、文化や自然を生かした観光振興について、公共及び民間建築物の木造、木質化の促進について、以上２点について質問いたします。

まずは本市の歴史、文化や自然を生かした観光振興についてです。

高島市長は、都市の成長戦略の一つとして観光・ＭＩＣＥの振興を掲げ、これまでクルーズ船の誘致など様々な施策を行い、平成28年には入り込み観光客数も2,000万人を突破しました。中でも、外国人の福岡市からの入国者数が平成30年には300万人を超えるなど、順調に観光客数は伸び続けてきました。ところが昨年、日本政府が韓国を輸出管理の優遇国、ホワイト国から除外したことによって、日韓の緊張関係がより深刻化し、さらに今年になって新型コロナウイルス感染症の影響で、全体のおよそ７割を占めていた韓国と中国からの訪日客が激減したことで本市経済にも様々な影響を与えることが考えられます。

こうした状況を踏まえ、本市としましても、既に何らかの対応を行っておられると思いますが、中小企業、小規模事業者に対してどのような支援を行っておられるのか、改めてお尋ねいたします。

新型コロナウイルス感染症が世界各国に拡大している状況を踏まえると、観光関連産業をはじめとして、様々な業種において業績悪化が懸念されますが、本市は第３次産業が９割を占める産業構造ですので、来訪者を増やし、消費を増やすことが経済の活性化につながります。新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、引き続き観光振興に取り組んでいかなければなりませ

ん。

今年は何といっても東京オリンピック・パラリンピックが開催されますし、４月からは観光振興の財源となる宿泊税も導入され、観光産業を大きく発展させるチャンスでもありますが、今後、観光・ＭＩＣＥをどのように振興していかれるのか、取組の方向性についてお尋ねいたします。

次に、公共及び民間建築物の木造、木質化の促進についてであります。

皆さん、ＳＤＧｓという言葉を耳にされたことがあると思います。改めて概要を説明しますと、国連に加盟する 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた持続可能な開発目標のことで、貧困や飢餓といった問題から、働き方や経済成長、気候変動に至るまで、現在の世界が抱える課題を解決するための 17 の目標と 169 のターゲットで構成されています。日本政府も平成 28 年に最初の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）推進本部会合を開催し、これまで８回の会合を重ねています。この持続可能な開発目標推進本部は、安倍総理が本部長を務め、全ての国務大臣がメンバーとなっており、これまでの会合で国際保健の推進支援に約４億ドル、難民問題への対応支援に５億ドル、女性の輝く社会の実現に約 30 億ドル以上の取組を行うとし、ＳＤＧｓ関連に合計約 4,000 億円の投資をすることを決定しています。このことからも日本政府のＳＤＧｓに対する意気込みが感じられます。

ただ、このＳＤＧｓの理念については、まだ皆さんに十分浸透していないのではないでしょうか。

私の経験談をお話ししますと、先月、地元の中小企業を対象としたセミナーが開催されたのですが、私は知人に誘われ、どのようなテーマかも知らず会場の席に着きました。机の上にはＡ４に色鮮やかに印刷されたペーパーが１枚置いてありました。見出しにアルファベットでＳＤＧｓ、その下に 17 色の四角の枠にそれぞれ文字が記入されており、その隣にこの頃よく目にする

17 色の丸いマークがありました。講師は佐賀ＳＤＧｓ官民連携円卓フォーラムの幹事長の大野博之氏でした。大野氏はまず、100 名ほどの参加者に、ＳＤＧｓについて簡単でいいですから説明できる方は手を挙げてくださいと問いかけられましたが、一人も手が挙がりませんでした。しかし、講演後はＳＤＧｓに対する参加者の意識は一変し、講師に対しての質問が相次ぎました。参加者の皆さんは、これからは企業経営においてもＳＤＧｓの理念を抜きにしては成り立たないことを感じ取られたようですし、私自身もこの取組の重要性を痛切に感じました。将来にわたってみんなが暮らしやすい世界を実現するには、ＳＤＧｓの目標を達成することが必要であり、そのためには市民一人一人の取組が大切です。今後、市民の皆さんにもっと周知を図っていく必要があろうかと思います。

さて、ＳＤＧｓに関する本市の動向に目を向けますと、平成 30 年８月に開催され、16 か国 32 都市の代表が参加した第 12 回アジア太平洋都市サミットにおいて、「ＳＤＧｓを踏まえ、相互に協力しながら、都市の経済発展と、環境の保全や保護、貧困や格差の是正、教育や医療、社会保障の充実、社会的包摂を実現することで、人と環境と都市活力の調和がとれた都市づくりを行い、地球規模の課題解決に寄与し、未来の世代が夢や希望を抱くことのできる世界を築いていく」といった福岡宣言が採択されています。

福岡市では、この福岡宣言を踏まえつつ、各施策の推進に取り組まれているところと思います。中でも近年、この傾向が顕著である気象災害の頻発化、激甚化は、地球温暖化がその一因とされており、ＣＯ２に代表される温室効果ガスの排出抑制、脱炭素社会の実現に向けた取組が急務となっています。

国においては、平成 30 年度税制改正の大綱におきまして、平成 31 年３月、森林環境税、森林環境譲与税の創設が決まり、昨年から自治体への譲与

が開始されました。これらの税は、2020 年以降の新たな国際的な枠組み、パリ協定に基づく我が国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るための森林整備の財源確保のため、そして、森林現場の課題に対応しつつ自治体自らが管理を行う新たな森林管理システムを構築することを踏まえて、国民一人一人がひとしく負担を分かち合い、森林を支える仕組みとして創設されたものです。

　こうした状況の中、昨年の決算特別委員会におきまして、私たち市民が望んでいる温暖化防止や自然災害防止といった森林が持つ多面的な機能を発揮するための荒廃森林の再生や道路網の整備には、平成 30 年度決算額では不十分であり、その目的を達成することはできないと指摘しました。それに対し高島市長からは、今後とも、森林の有する多面的機能を発揮させるとともに、都市型林業の創造に努めていくと答弁をいただきましたが、この都市型林業の創造にも来年度増額される予定の森林環境譲与税を活用されるものと考えております。

　そこで、お尋ねしますが、令和２年度における福岡市への森林環境譲与税の見直し前後の配分見込額はどうなっているでしょうか。

　また、来年度予算における森林の多面的機能を発揮させるための施策や都市型林業の創造など、林業振興に係る主な取組とその予算額についてお尋ねします。

　以上で１問目を終わり、２問目は自席にて行います。

○経済観光文化局総務・中小企業部長　本市の歴史、文化や自然を生かした観光振興についてお答えいたします。

　まず、新型コロナウイルス感染症の経済への影響に係る中小企業、小規模事業者への支援につきましては、福岡商工会議所ビル内に市の特別相談窓口を設置し、経営や金融相談に対応いたしております。コロナウイルスの影響が観光関連産業をはじめとする幅広い業

種に広がっていることを踏まえ、市の融資制度におきまして、事業者が支払う信用保証料を福岡市が全額負担する新たな融資メニューを創設するなど、中小企業に対する支援の充実を図っております。

次に、今後の観光・ＭＩＣＥの振興につきましては、宿泊税という貴重な財源を活用し、九州のゲートウェイ都市機能の強化に向けて、ＭＩＣＥ施設の整備や観光情報の発信強化による九州周遊観光の促進に取り組むほか、今後のスポーツＭＩＣＥ等の開催に向けて、歴史文化資源の魅力向上や地域での観光客の受入れ環境の充実を図ってまいります。また、観光によるまちの活性化と地域や市民生活の調和を図るため、健全な民泊の普及推進や海辺などの地域資源を生かした観光振興などに取り組んでまいります。以上でございます。

○農林水産局長　まず、森林環境譲与税の令和２年度の福岡市への配分見込額につきましては、見直し前が約 6,700 万円、見直し後の令和２年度予算額は１億 4,300 万円となっております。

次に、令和２年度の林業関係予算額につきましては４億 7,954 万円で、令和元年度に比べ 6,962 万 7,000 円増額し、予算を拡充しております。

また、令和２年度の林業関係の主な事業は、森林の有する多面的機能の発揮を目的として間伐を行う森林環境整備事業などに３億 1,040 万 9,000 円、都市型林業の創造として林道整備事業などに１億 5,360 万 4,000 円、さらに農林業総合計画の策定に向け、将来の森づくりの在り方を検討してまいります。以上でございます。

○大原弥寿男議員　２問目に入ります。まず、歴史、文化や自然を生かした観光振興についてお尋ねしていきます。

今年度はラグビーワールドカップの開催を契機として、欧米豪をターゲットとした受入れ環境の整備やおもてなしイベントを実施したことで、まちなかでもよく欧米人を見かけるようになり、一定の成果があったと認識しております。今後も大規模スポーツイベントなど、機会を捉えた観光振興が重要だと考えます。来年はＦＩＮＡ世界水泳選手権大会 2021 福岡大会が開催されますので、今回のラグビーワールドカップでの成果を踏まえ、欧米での福

岡市の認知度が高まるように、さらに工夫を重ねていただければと思います。

一方、福岡市の外国人入国者数は隣の韓国、中国からがほとんどで、先ほど申しましたように、国際情勢に左右され、安定性に欠けることから、特定の国に偏らずにアジアの他の国から、あるいは国内客も含めて幅広く誘客することが必要です。私が３年前に韓国の済州島に旅行に行ったときは、韓国と中国の関係が悪化し、中国が韓国への団体旅行を禁止して間もない頃でしたので、中国からの観光客はいませんでした。ところが、韓国のガイドさんは、中国からの観光客が突然来なくなって今は大変だけど、ここは以前から新婚旅行のメッカでもあり、韓国国内の観光客がまた戻ってきているので、そんなに心配はしていないとおっしゃっていました。

福岡市においてはインバウンドも重要だと思いますが、国内の観光客を呼び込むことにも力を注ぐべきではないでしょうか。

歴史的に見ても福岡市には日本で最も古い王墓と言われる吉武高木遺跡や日本で最も早く稲作農耕が開始された板付遺跡など、縄文や弥生持代の遺跡や遺物が数多くあり、さらには金印や元寇防塁など、日本で唯一福岡にしかないものもあります。また、神社では全国二千数百社ある住吉神社の始祖である博多区の住吉神社、日本三大八幡宮の筥崎宮など、歴史や格式ある神社が幾つもあります。さらに、かつては数多くの名僧が博多を通じて日本と中国を行き来し、寺院の数は京都市に次いで日本で２番目に多いとも言われています。また、作家の長谷川町子さんが国民的人気を誇るサザエさんの着想を得たのは百道の海岸で、発案の地周辺はサザエさん通りと命名され、サザエさんや全国初となる長谷川町子さんの銅像が設置されています。福岡市内には観光客を案内する名所が少ないとよく言われますが、このような国内外の観光客を引きつける歴史や文化資源はまだまだあるはずです。

そこで、お尋ねしますが、歴史文化資源を活用した観光振興としてこれまでどのような取組を進めてこられたのか、お尋ねします。

本市の郊外には元寇防塁や吉武高木遺跡などに代表される国内でも著名な歴史資源が多数ありますが、比較的整備が進んでいる生の松原の元寇防塁でも、近くに駐車場がないとか、場所を示す看板が分かりづらくて迷ってしまったとの観光客の声を耳にしますし、場所が分かりにくいとの声は吉武高木遺跡でも聞いています。本市の宝とも言える貴重な歴史資源を観光資源として磨き上げるためには、駐車場やトイレ、案内板設置といった受入れ環境の整備が不可欠です。

そこで、令和２年度の歴史資源の観光活用に向けた受入れ環境整備の主な事業予定とその予算額をお尋ねします。

次に、公共及び民間建築物の木造、木質化の促進についての質問です。

ＳＤＧｓに掲げられている森林の持続可能な管理を実現し、森林を健全な状態で次世代へと引き継いでいくためには、木材を利用することが重要です。

では、なぜ木材の利用促進が重要なのでしょうか。

木材利用を促進する目的としては、戦後植林された杉やヒノキが伐採の適齢期を迎えているにもかかわらず、需要が少なく採算が取れないために放置され、森林が荒廃していることから、木材の利用を促進し、林業を活性化させ、森林が元来有している多面的な機能の回復、維持向上を図るということがもちろんあります。ただ、それだけにとどまらず、成長した樹木を建築物などに利用することはＣＯ２を封じ込めることにもなるからです。樹木が吸収したＣＯ２は炭素として取り込まれ、幹や枝葉を構築する物質となります。木材の重さのおよそ 50%が炭素の重さとされており、成長した木は、いわば炭素の塊とも言えます。木材、木製品は燃やせば炭素と酸素が結びつき

ＣＯ２が放出されますが、燃やさない限り、ＣＯ２に由来する炭素が固定されたままになります。つまり、身の回りの木材、木製品が増えるほど、大気中の二酸化炭素が減ることになります。建材として使われるコンクリートや鉄骨などは、もともと地下資源を原材料とし、製造過程で大量のＣＯ２を排出します。さらに、海外からの輸入品であれば、輸送にもＣＯ２の排出を伴います。そのＣＯ２が一因とされる気候変動によって様々な自然災害が起こり、毎年、世界では多くの命が奪われています。

ＳＤＧｓでは、気候変動に具体的な対策をとの目標が掲げられています。木材を利用することは、ＳＤＧｓの理念にかなった世界の潮流であり、国土の68.5%が森林である我が国、３分の１を森林で占める本市が今すぐに取り組める、取り組むべき対策ではないでしょうか。

樹木が最もＣＯ２を吸収し成長するのは樹齢40年頃までで、その後は吸収量が減っていくとされていますので、森林のＣＯ２の吸収効果を高めていくには、適齢期の樹木を伐採し、適切なサイクルで植え替えることが必要です。そして、その伐採を促すには、伐採した樹木を木材として利用しなければなりません。

こうした点からも健全な森林の保全、そのための林業の振興にとっては、木材利用の促進が極めて重要であると思いますが、今年度、本市においては木材利用促進のためにどのような取組を行われたのか、お尋ねいたします。

○経済観光文化局総務・中小企業部長　歴史、文化や自然を生かした観光振興についてお答えいたします。

福岡市は二千年を超えて栄えてきた都市として、重要な歴史資源を多数有しております。これまでの主な取組として、鴻臚館、福岡城では史跡の修復、復元を図るとともに、身近な文化財を活用し、集客イベントの実施や乗馬や着つけなどの体験プログラムの開発を進めるほか、志賀島における国宝金印の観光案内や情報発信、また、日本で唯一福岡市に現存する元寇防塁を活用した観光振興に取り組んでおります。また、中世最大の貿易港

であった博多部において、観光資源を磨き上げ、ストーリーとまち並みでつなぐ博多旧市街プロジェクトを推進しております。

次に、令和２年度の歴史資源の観光活用に向けた受入れ環境整備の主な事業予定といたしましては、西区生の松原地区の史跡、元寇防塁において、より多くの観光客などの見学者を受け入れるため、駐車施設やトイレの設置に着手するほか、住吉神社の能楽殿について歴史的建造物としての価値を生かしながら、インバウンド向けの伝統芸能やＭＩＣＥ開催時のユニークベニュー活用などの多様な利用に対応できるような施設整備を支援してまいります。これらの令和２年度の関連事業の予算額は 3,800 万円余を計上しております。以上でございます。

○農林水産局長　令和元年度における木材利用促進の取組につきましては、早良区入部出張所の内装木質化や木材利用に関するガイドラインを策定するとともに、木材利用のための研修会や市民に木のよさを知っていただくための木製品の展示、配布イベントを開催するなど、木材利用の普及啓発を図っているところであります。以上でございます。

○大原弥寿男議員　それでは、歴史、文化や自然を生かした観光振興についてお尋ねしていきます。

本市が誇れる観光資源としては、これまで述べてきましたように、本市にしかない歴史資源や文化財があるわけですが、中でも早良南部や北崎・今津地区などには由緒ある寺院が多く存在していますし、早良南部に代表される豊かな自然があることも忘れてはいけません。

脊振山の歴史については、地元の方もあまり御存じないようですが、709 年、元明天皇より勅命を受けた湛誉上人により開山され、その後、数多くの寺が散在する大伽藍となり、脊振千坊・嶽万坊と呼ばれ、比叡山、高野山、英彦山と並び、山岳仏教の聖地として栄えたそうです。

中国で仏教を学んだ最澄、空海、円仁、栄西といった数々の名僧が帰国して、まず脊振山に入山、修行された後に、奈良や京都に赴かれたそうです。その一人、栄西が持ち帰ったお茶の種が脊振山にまかれ、日本のお茶の栽培

の発祥の地とされており、栄西禅師をたたえた記念碑、茶徳碑が建てられ、脇山中央公園として整備されています。

昭和天皇即位の礼では、大嘗祭に献上される新米を作る主基斎田に脇山が選ばれ、今でも毎年お田植祭が行われています。脊振山系から流れ出る清らかな水で育てられた米はおいしく、ブランド米として絶賛されているほか、きれいなおいしい水で作るそばや豆腐、野菜なども好評を得ています。

その脊振山系が比叡山、比良山地などとともに、2019 年度、日本山岳遺産の認定地となりました。この日本山岳遺産というのは、次世代に伝えたい豊かな自然環境や、人と自然の関わりがあり、それを守りながら活用する地元の活動が盛んな山岳エリアのことであり、日本山岳遺産基金事務局が認定しています。

今年２月、一橋大学講堂で行われた認定書授与式に、脊振の自然を愛する会の代表、池田友行さんが出席されました。脊振の自然を愛する会は、長年、脊振山の登山道の整備や美化に努められるとともに、多くの方々に脊振山のすばらしさを発信し続けていらっしゃいます。平成 30 年には、第９回福岡市環境行動賞も受賞されています。

このように、早良南部には民間団体の活動に支えられている豊かな自然をはじめ、歴史、食といった魅力的な多くの観光資源があります。

そこで、早良南部にはどのような観光資源があると市は認識しておられるのか、また、これまで早良南部において実施した観光振興の取組にはどのようなものがあるのか、お尋ねします。

昨年、早良南部の名所旧跡や店舗を紹介した英語版のパンフレットを福岡市に作成していただきましたが、その表紙の写真は脊振山系の野河内渓谷です。この野河内渓谷は、数十年前までは水遊びやキャンプに訪れる家族連れなど、多くの市民でにぎわっていました。しかし、博多駅からの直通バスが

廃止になったこともあってか、今はそのにぎやかさがなくなり、渓谷に沿った遊歩道も途絶えてしまいました。昔のにぎわいを何とか取り戻したいとの願いから、７年前に地元の自治会で渓谷の整備作業に取りかかったのですが、直後にリーダーの方が滑落事故に遭われ、そのときのけががもとで、２年後に亡くなられてしまいました。事故の後は誰一人、渓谷のことを口にしなくなりましたが、以前のにぎわいを取り戻したいという気持ちは日々大きくなるばかりです。

野河内渓谷の下流域では休日になると子ども連れをよく見かけます。特に夏場は芋の子を洗うように川遊びをする小さな子どもたちでにぎわっています。都心部から僅か車で 30 分ほどの場所に、豊かな自然と歴史に育まれた脊振山系が広がっているのです。脊振の自然を愛する会の池田さんは、口癖のようにこうおっしゃっています。「福岡市民の皆さんに脊振山系をもっと知ってもらいたい、来ていただきたい、楽しんでいただきたい。それには登山口にトイレと駐車場が必要なんだ。だけど、これは自分たちの力ではできません。だから、福岡市にお願いするしかないんです」と。

早良南部には豊かな自然、おいしい食、そして歴史もあって、観光地としてのポテンシャルは十分にあるのですが、観光客を受け入れる最低限の設備であるトイレや駐車場が不足しています。

先ほど、来年度の事業として、生の松原地区の元寇防塁においてトイレや駐車場の整備に着手する予定との答弁がありました。私は常々、市街地だけではなく農山漁村地域においても観光資源を磨き上げることにより、地域の活性化やさらなる観光振興が図られるものと思っています。

令和２年４月から、いよいよ宿泊税の徴収が始まります。今後、宿泊税も活用して、農山漁村地域の観光振興をどう推し進めていかれるのか、お尋ねするとともに、早良南部などにおけるトイレや駐車場、案内板設置といった

観光客の受入れ環境の整備を着実に進めていただきますよう要望いたしまして、この質問を終わります。

続いて、公共及び民間建築物の木造、木質化の促進についてお尋ねしていきます。

ここで、農学博士の村尾行一氏の著書から、木材に関するデータを紹介させていただきます。

木材はもろくて燃えやすく、長もちしないので、特に都心部での建築資材には不向きだとの固定観念がありますが、引っ張り強度を比較すると、鋼鉄が 641、コンクリートは 13 に対し、杉が 2,570、圧縮強度の比較でもコンクリートが 167、花崗岩が 508 に対し、杉は 1,000 もあるそうです。

また、木材は火事に弱いと思われがちですが、柱やはりは表面だけが燃焼するだけで、火事に耐えるそうですが、鋼鉄製のはりだと火災の５分後には強度が半減するため、２階建ての住宅の場合、２階部分が短時間で崩落するとも言われています。

そして、耐久性ですが、世界で最古の木造建築物とされる法隆寺を見ても、木材を利用した建築物は、管理次第で 1,000 年以上も長もちすることが分かります。

さらに今では、木を超える木として、薄い板をつなぎ合わせ、積層して接着させた集成材が開発されており、ドイツのミュンヘンにはこの集成材を使った高さ 164 メートルの放送塔があるそうです。

また近年、木材の板を積層接着させた直交集成材、ＣＬＴが大いに注目され、現在既に多くの建築物に利用されています。オーストリアなどヨーロッパではＣＬＴを使った高層ビルが何棟もありますし、日本ではオリンピックスタジアムをはじめ、様々な建築物に利用されるようになりました。

昨年 12 月末、本市の森林・林業・林産業活性化促進議員連盟で、平成 30

年に新社屋を木造で建設された佐賀市内のゼネコン、松尾建設さんを視察させていただきました。

そこで、出迎えていただいた同社の山田会長から、新社屋を木造にされたいきさつをお伺いしました。山田会長によりますと、その時代時代の求めに応じて、常に新しい技術に挑戦していくという社風が引き継がれてきた中で、地球環境負荷の大きなコンクリートや鉄骨から木への転換が世界的な潮流となっていることを踏まえ、創業 130 周年を契機に、長期的な視野に立って、木造建築を推進するにふさわしい建物を目指して社屋を建設されたとのことでした。ＣＡＳＢＥＥという環境等に配慮した建物を総合的に評価するシステムでＡランクの評価を受けられたとのことです。

持続可能な環境未来都市づくりへつなげるために、耐震、耐火機能はもちろんのこと、ＣＯ２削減や創エネ、省エネといった環境への配慮、そして、快適さを追求した技術が至るところに駆使された本当にすばらしい建物でした。

このように、中央のゼネコンだけではなく、地方でも製造過程で大量のＣＯ２を排出するコンクリートや鉄骨から木に転換するための技術開発が急ピッチで進んでいるように思われます。民間における建築物の木造、木質化については積極的に進められているところですが、今後、こうした動きを加速させるための取組が必要であると思います。

政令指定都市の自民党市議会議員で結成された木材利用促進議員連盟では、毎年２回研修会を行い、建築物だけではなく環境に配慮した木材の利用方法についても意見交換を行っています。

先ほどの答弁では、早良区入部出張所の木質化を取組事例として挙げられましたが、こうした研修会に参加したり、他都市を視察するたびに、本市の公共物の木造、木質化がまだまだ進んでいない現状をつくづく実感させられ

ます。

　今年度中に木材利用に関するガイドラインを策定するとのことですから、農林水産局だけにとどまらず、環境局や住宅都市局など、局を横断したチームを組んで、実現可能性のある具体的な施策を検討していただきたいと思っていますが、公共、民間建築物の木造、木質化を促進するために、本市はこれからどのような取組を進めようとしておられるのか、お尋ねします。

　木材を利用することで、植える、育てる、使うという森林の持続的なサイクルが保たれることにより、地球温暖化防止や土砂災害防止など、森林の多面的機能が発揮されることは先に述べました。

　さらに、2017 年１月に国連森林フォーラムが採択した国連森林戦略計画では、森林の活動がＳＤＧｓの 17 の目標のうち、実に 14 の目標達成に寄与すると示されています。福岡市域の３分の１は山林です。森林環境譲与税が創設され、さらに増額された、まさに今こそ、森林の整備並びに木材利用促進を計画的に進めるべき好機です。

　そこで、森林がもたらす多様な恵みを守り育て、健全な状態で次世代に引き継ぐために、長期的な視点に立った福岡市の森づくりの展望が必要と考えられますが、本市の意気込みをお聞かせください。

　木材は健康的で安らぎのある空間をつくり出すことから、本市でも私立の保育園や幼稚園、そして障がい者施設などに、落ち着いて温かい雰囲気の木造、木質化の建物が見られるようになりました。木造校舎は鉄筋コンクリートの校舎と比較して、不登校児の割合やインフルエンザの発生率、疲労を訴える先生の割合などを半減できるとの公式なデータもあります。文部科学省の調査によりますと、木造校舎は年々増加傾向にあり、平成 30 年度における新築の学校施設 760 棟のうち 469 棟、割合にして 61.7%が木材を使用しているとのことです。

　こうしたことも踏まえ、ぜひ本市の公共施設、とりわけ子どもたちが長い時間を過ごす学校校舎の木造、木質化を推し進めていただきますよう、最後に改めて強く要望いたしまして、私の質問を終わります。

○経済観光文化局総務・中小企業部長　歴史、文化や自然を生かした観光振興についてお答えいたします。

　早良南部の観光資源につきましては、野河内渓谷や曲渕の紅葉をはじめとする脊振山系の豊かな自然、脇山米や豆腐などの食材、国宝である西光寺の梵鐘や主基斎田跡などの歴史資源があると認識しております。こうした観光資源をめぐる取組として、平成 30 年度から早良商工会と連携しながら、グリーンツーリズムの振興を図っており、エリア内店舗の多言語対応支援や英語版の観光マップの作成のほか、外国メディアを活用した情報発信などに取り組んでおります。

　次に、農山漁村地域の観光振興についてお答えいたします。

　農山漁村地域については、豊かな自然環境や美しい景観、歴史文化資源など、都心部にはない地域の大きな魅力があると考えております。令和 2 年度からは、宿泊税も活用しながら、海辺を生かした観光振興として、志賀島と北崎において、ハードとソフトの両面から海辺の観光周遊コースの形成に向けた魅力向上やブランディングに取り組んでいくこととしております。宿泊税を活用した農山漁村地域の観光振興につきましては、風光明媚な景観を楽しむサイクルツーリズムや、自然や食を生かしたグリーンツーリズムなど、エリアの特性に合わせた持続可能な観光振興に引き続き取り組んでまいります。以上でございます。

○農林水産局長　まず、公共及び民間の木材利用促進についてお答えいたします。

　福岡市では、平成 25 年度に公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針を定めているところであります。令和元年度は、この方針をより実効性のあるものとするため、木材利用に関するガイドラインを策定し、森林環境譲与税を活用した公共建築物の木材利用を進めますとともに、民間建築物の木材利用を促進するため、これまでの取組に加え、他都市の先進事例等を調査、検討するなど、木材利用の普及啓発を図ってまいりたい

と考えております。

　次に、福岡市の森づくりの展望につきましては、森林は大原議員御指摘のとおり、地球温暖化防止や土砂災害防止などの機能のみならず、市民生活に癒やしや潤いを与え、健康増進に寄与し、ミネラル類を多く含んだ滋養豊かな水を作るなど、ＳＤＧｓの多くの目標達成に貢献する、人と地球に優しい様々な機能を有しております。しかし、現状では手入れがなされず機能が低下した人工林の存在や、森林の多面的機能に対する理解が進んでいないなどの課題があると認識しております。

　このような中、福岡市におきましては、市民が将来にわたって森がもたらす多様な恵みを享受し、それを実感できるよう、市民生活を支える観点やＳＤＧｓの趣旨を踏まえ、長期的な視点で福岡市の将来の森づくりの在り方について、しっかりと検討を進めてまいります。以上でございます。